

よしきい

2025年 盛夏号



ヒバリと公園ビジターセンター

会員 M.F 画

目次

公園の風景

- ・ヒバリの大喧嘩 1
- ・生き物ガイド 1
- ・赤い宝石 1
- ・赤トンボじゃない!? 1
- ぐるっと山口湾 ③ 2

みんなのひろば

- 青くないのにアオサギ? . . . 2

活動紹介

- ・カブトガニ見つけた! . . . 3
- ・「夏・子」の夏 3
- ・「…子供達に特別な一日を」 . . 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kiirara@gmail.com

HP <https://ashinokai.cloudfree.jp>

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



活動紹介

= カブトガニ、見つけた！ =

6月27日(金)、秋穂の長浜干潟で秋穂二島小学校の環境学習会が行われました。葦の会会員4名も参加し、子供たち11名と付き添いの方々と共に干潟の生き物に接してきました。30℃を上回る炎天下、初めて手の平にすくいあげたカブトガニに興奮する子供たちの声が響き、暑さにヘトヘトになりそうな会員たちも元気を貰いました。



= 「夏・子」の夏 =

7月21日(海の日)は、葦の会による恒例行事の「夏休み早朝子ども観察会」(略して「夏・子」)が行われます。早朝と言ってもスタートは7時。年々暑くなる夏の3時間ほどの外活動ですが、涼しい服装をし、水分補給に気を付けながら、無理をしないよう活動しましょう。



<俳句教室 最多選句>

湖風の今日は強きや花海桐

清子

楊梅の落ちて踏まれて青き空

はるか

=「夏休み中の学童保育に通っている子ども達に特別な一日を」=

昨年に続き、二回目となる積水ハウス(株)山口工場による企画です。7月から8月の間に8回ほど、夏休み中の学童保育の子供たちを招待し、山口工場で環境教育を、当公園では自然体験をしてもらいます。葦の会は園内活動の補助と、カレーライス作りでランチ提供を行います。嬉々とした子供たちの笑顔と出会い、価値ある活動の一役を担えることは幸いです。

5月 6月

<編集後記>

「熱中症警戒アラート」は暑さ指数が33を超えると予想される時発表されることになっています。できるだけ外にいないでエアコンのかかった涼しい部屋にいるようにと呼びかけられますが、個人個人がエアコンを使えば室外機から出る熱風で気温はますます上がりますね。この悪循環を解決する方法はないのでしょうか？ (nimu)

公園の風景

= ヒバリの大喧嘩 =

いつものように公園を散歩していた時、園路でピョコピョコ歩いている小鳥を発見！ヒバリです！春、早い時期からホバリングをしながら♪ピーチュルピーチュル♪と1分以上(長い時には20分も！)鳴き続けるのは、縄張り宣言と縄張りの監視、外敵に襲われないためです。

しばらく写真を撮りながら観察していると、あら、もう1羽飛んできた！と思ったら大喧嘩が始まりました。上を下への大騒ぎ。そのまま2羽でもつれあいながらどこかへ消えていきました。

公園ではたまにこんな面白い光景に出会えます。本人たちはいたって真剣でしょうけど。



= 生き物ガイド =



日曜、祝日に随時行っている公園レンジャーによる「生き物ガイド」。6月29日は好天・高温の中、親子連れ数名が干潟ふれあいゾーンに集まるカニを1時間ほど観察しました。定期的なイベントではありませんが、その都度告知し、参加者の希望に答えてどの生き物を観るかを決める対応もしてくれます。皆さんご参加ください。



= 赤い宝石 =



今年もヤマモモが実りの時期を迎え、駐車場から園内に入るなり上を見上げるのが習慣となっている。若い緑色の実が赤黒く完熟するまでの色のグラデーションは実に美しく、見上げるたびに魅了されるのだ。加えて野性味を感じる甘酸っぱさと松ヤニのような香り、柔らかくもなく硬くもない食感も独特だ。生食も良いが日持ちが悪いので、ジャムや果実酒として楽しまれているようだ。ちょっとおしゃれな和食屋でこの実が供されているとおっ！と思うような存在である。

24年前の当公園の開園に合わせ植樹されたヤマモモは27本。確実に成長し、鳥たちの力も借り新たな株も増えているようだ。

= 赤トンボじゃない!? =

公園にはおよそ59種類のトンボが棲息しています。その中でひときわ目を引く赤いとんぼ。「あ、赤トンボだ！」

…と思ったトンボは「ショウジョウトンボ」といって赤トンボではないのだそうです。レンジャーさんによると、赤トンボは「アカネ族」に属し、ショウジョウトンボは「ショウジョウトンボ族」に属しているそうです。こんなに真っ赤なのに赤トンボじゃないなんて、何なんでしょうね～！不・思・議！



ぐるっと山口湾 ③

山口湾を

ラムサール登録

山口湾の中の周防大橋の北側に「波多瀬」と呼ばれている岩礁があります。葦の会では毎月、満潮時にここで休むクロツラヘラサギの数をチェックしています。この冬確認した 45 羽のほとんどは繁殖地の台湾や朝鮮半島に帰ったと思われ、夏の時期にいるのは、幼鳥で繁殖しないため留まっている居残り組と見られます。



いつもは海辺にいるクロツラが公園近くの田んぼにいました！



クロツラが休む「波多瀬」



春には青々としていた秋穂の麦畑。5月には見事な「麦秋」が広がっていました。



みんなのひろば



青くないのにアオサギ？

通勤時、防府の三田尻大橋を少し通り過ぎた辺りにアオサギやダイサギのコロニーがあります。5月1日に見た時はまだ小さかったアオサギの雛が、20日にはお母さんサギの半分くらいの大きさになり、6月19日にはほぼ同じくらいに成長していました。

アオサギはペリカンの仲間で、どこでも見られる身近な鳥ですが、灰色がかった体色をしているのに何で「青」なんだろうとふと思いました。これは古代の日本で「青」の概念がとても広く、ほんやりした灰色も青として認識されていたことから名前として付いたようです。

又、アオサギは海外では縁起のいい鳥とされ、古代エジプトでは「生命や作物の源泉である太陽は卵から生まれた」といい、その卵を温めたベヌウという鳥がアオサギのイメージの原型であるようです。

「ギャッ」という甲高い鳴き声も、自分の存在を知らせたり次の行動への注意を促したりする役割があると言われています。帰巢時には「ただいま」のような挨拶として発することもあるそうで、仕事帰りに鳴き声を聞くと、雛たちに「ただいまー！」と言っているのかもしれないな～と思いながら車から眺めています。もうすぐ独り立ちを迎える雛も無事に巣立ってほしいものです。(M・M)



5月1日撮影



皆さまのご投稿をお待ちしています。ashinokai.kirara@gmail.com までお送りください。